



SYNESIS version 4.0

リリースノート

2019/01/30

本文書は、大容量パケットキャプチャ/解析システム「SYNESIS」のリリースノートです。

1. SYNESIS version 4.0 の新機能

1.1. MFA

- 複数のポイントでキャプチャしたデータをマージして、ラダー図の表示が可能になりました。
- フロー、アプリケーションによる絞り込みを行うことで、視覚的なトラブルシューティングが可能になりました。

1.2. トンネルフィルタ・解析

- IP フローおよびフローのキャプチャフィルタでは、GTP インナーヘッダによるフィルタが可能となり、対象とするヘッダが Outer/Inner/Both から選択可能になりました。
- APM, NPM, L2/L3 プロトコル解析では、解析対象とするヘッダを Outer/Inner から選択可能になりました。

1.3. パケットリプレイヤー

- パケット内容の置換機能で、IP, TCP, UDP チェックサムの再計算が可能になりました。
- MAC アドレス、IP アドレスの置換で、全アドレスの一括置換が可能になりました。
- トレースファイルのリプレイでは、チャンネルごとに異なるプロファイルが設定可能になりました。
- リプレイの開始・停止が RESTful API で可能になりました。

1.4. AA (プレビュー版)

- Uila 社のエンジンを利用し、データセンタ内のアプリケーションサーバ同士の関連、あるいはパフォーマンスを視覚的に確認できるようになりました。(10G インタフェース、ラックマウントモデルのみ)
- 本機能はプレビュー版のため、不具合修正のパッチなどをご提供できない場合があります。

1.5. SSL/TLS

- SYNESIS とクライアント間の通信が暗号化され、平文での通信がなくなりました。

1.6. RADIUS 認証

- 外部 RADIUS サーバに登録したユーザアカウントで、SYNESIS のサインインが可能になりました。

1.7. ドキュメント

- SYNESIS のヘルプコンテンツを pdf から Web Help に変更しました。
- 各種手順書を SYNESIS 本体に配置しました。

1.8. ログ収集

- マネジメントページのログ収集機能で取得できるログの種類が増え、障害の切り分けが多方面から可能になりました。

1.9. Version Up

- Version UP の操作がわずか数ステップに簡素化され、所要時間も短縮しました。

1.10. 軽微な改善

- SYNESIS のどの画面からでも、各チャンネルのリンク状態が確認可能になりました。
- 物理ポートのチャンネル配置を確認可能になりました。
- 構成メニューをカテゴリ（機能）ごとにまとめました。

2. バージョン 3.5 からの変更点

2.1. バージョンアップ時の注意点

- Web アプリケーションおよび RESTful API の URL を、http から https に変更しました。
- これに伴い、SYNESIS の Web アプリケーションで使用するポートが 8080 から 443 に変更されます。
- パケットリプレーヤーのパターンによるパケット置換機能では、マスク値が 0 のビットを “don't care” と解釈するよう変更しました。詳しくは取扱説明書を確認ください。

2.2. 修正された制限事項・不具合

- 設定のバックアップ・リストア機能および SYNESIS の初期化機能が、OS のユーザ名またはパスワードを変更した環境では実行できない不具合は修正され、本バージョンで実行可能になりました。
- バージョン 3.5 以前では、SYNESIS のストレージ情報に表示されるパケットストアの容量が本来よりも小さく表示される不具合があり、「GiB」で計算された値に「GB」の単位が付加されて表示されていました。本バージョンで修正され、「GB」で計算された数値が表示されるようになりました。
- トレースファイルのサイズが実際よりも 1 だけ小さく表示される不具合を修正しました。
- キャプチャオプションの自動保存で保存フィルタを選択しても、キャプチャ開始時にフィルタが適用できない不具合を修正しました。(Ref #4833)

2.3. 廃止されたオプション

- スタンドアロン製品の SYNESIS パケットリプレイヤー-3.5 を、本バージョンで SYNESIS のパケットリプレイヤー機能に統合しました。本バージョン以降ではご使用になれません。

3. 既知の不具合

3.1. バージョン 3.5 以前からの不具合

- キャプチャ中のレコードの名称を変更しても、キャプチャ終了時に変更前の名称に戻ります。(Ref #1114)
- アラート画面から各アラートのトレースファイルを作成しようとした場合、ソフトウェアフィルタが自動では適用されません。デフォルト設定では該当の期間の全パケットが保存されます。(Ref #1649)
- メモリ使用量が多い状態でバックアップを実行すると、タイムアウトによりバックアップの作成に失敗することがあります。(Ref #1752)
- 保存フィルタの入力画面で新規フィルタを作成する画面を開いた際、前回入力した値がそのまま表示されます。(Ref #1754)
- 直近のデータの解析結果は、キャプチャの停止を行う、または次のパケットがキャプチャされるまで、ダッシュボード、APM/NPM 画面で閲覧できません。(Ref #2865)
- デコード画面からトレース保存を行う場合、ファイル名を指定できません。(Ref #4017)
- インストール後はじめて L2/L3 プロトコル統計を有効にして自動解析を ON にした場合、キャプチャ開始直後の 1 秒間、およびキャプチャ終了直前の 1 秒間のカウントが実数より少なくなる場合があります。(Ref #4169)
- ダッシュボード画面のトレンドグラフで、表示期間を 30 分以上にした場合、右端のプロットが 0 になる場合があります。(Ref #4212)
- 最大ファイル数を 2 以上としてトレースの保存を開始し、保存先の容量が一杯になった場合は、作成済のファイルもダウンロードできません。(Ref #4358)
- 解析の進捗度は、解析が完了するまでは 0%と表示されます。実際の進捗度は表示されません。(Ref #4580)
- レポート機能の周期レポートおよび単発レポートで、集計間隔が 1 ヶ月のグラフは、正しく描画されない場合があります。(Ref #4741)
- 統計のエクスポート機能で、ユニキャストパケットの総和が実際と合わない場合があります。この現象はブロードキャストパケットおよびマルチキャストパケットのみキャプチャされ、ユニキャストパケットがキャプチャされない場合に発生します。(Ref #4771)
- SYS-2G-EP/SYS-2G-ER モデルでキャプチャ後にマイクロバースト解析を行うと、複数チャンネルでバーストが発生している場合に正しく検知できない場合があります。キャプチャ中の自動解析であれば正しく検知できます。(Ref #4774)
- ディスクフル時の動作を停止にしてキャプチャを開始した場合、ディスクがフルになった後もキャプチャステータスが更新されません。画面をリフレッシュするとステータスが停止になります。(Ref #4781)

- SYNESIS の初期化機能を出荷後はじめて実行した場合に失敗することがありますが、もう 1 度初期化を実行すれば正常に完了できます。(Ref #T62515)

3.2. 本バージョンで追加した既知の不具合

- 外部データソース (統計値と解析のバックアップ機能) は、SYS-8G2-HPR、SYS-80G2-HPR、および SYSC-XL オプションを適用した SYNESIS では使用できません。(Ref #2793)
- 自動保存を有効にして、かつ時刻トリガによるロックを有効にしてキャプチャを行うと、ロックが設定時刻より遅れて作成される場合があります。(Ref #7819)
- RADIUS による外部認証が有効な状態であっても、RESTful API はローカルユーザで認証されます。(Ref #7858)
- MFA およびデコード機能で、エキスパート情報の表示領域を縮めることができません。そのためご使用のモニタサイズによっては、パケット一覧およびパケット詳細情報の表示領域が十分に確保できない場合があります。(Ref #8150)
- MFA では Wireshark でキャプチャを行い pcapng 形式で保存したトレースファイルはマージできません。pcap または pcap(nanosecond) 形式で保存してください。(Ref #8355)

4. 制限事項

4.1. バージョン 3.5 以前からの制限事項

- APM/NPM 画面において、新たに登録したサイト、サーバーグループはウェブページをリフレッシュするまで反映されません。(Ref #130)
- バックアップされたレコードに対し、マイクロバーストの閾値の変更機能を行うと、結果が表示されません。リセットを行えば、元々の解析結果が再度表示されます。(Ref #1507)
- 統計情報をエクスポートしたレコードに対してバックアップを行った場合、作成済みの統計情報がバックアップされません。再度統計情報をエクスポートし直すことはできます。(Ref #1512)
- マイクロバースト解析を行った 5 分未満のレコードをバックアップした場合、リストアしてもマイクロバーストの解析結果が表示されません。5 分以上のレコードであれば正常に表示されます。(Ref #1506)
- バックアップされたレコードに対し、選択した時間範囲の統計をエクスポートしようとする、それが実行できない旨のエラーが表示されます。全範囲のエクスポートは実行可能です。(Ref #2643)
- 各チャンネルのリンク状況を確認できるモデルで、キャプチャ開始直後の統計情報のステータスが "unknown" と表示されることがあります。(Ref #3671)
- 検出したマイクロバーストのアラームは最大 500 個までしかテーブルに表示できません。
- キャプチャ期間が 5 分未満のレコードでは、APM 解析の結果が検出できないことがあります。APM 解析を行う場合には 5 分以上キャプチャしたレコードに対して行ってください。
- キャプチャ開始後 2 秒間はパケット数などの統計情報がカウントされません。

- マイクロバースト解析はチャンネル A～D に対してのみ実行できます。SYS-8G2-HPR モデルでは、チャンネル E～H のデータはマイクロバースト解析できません。
- 自動保存機能の保存先としてネットワークマウントを行っているディレクトリを指定する場合には、マウント時に適切にタイムアウトを設定する必要があります。
- 自動保存機能は、キャプチャ停止の直前 10 秒間のパケットは保存されません。
- SYS-2G-ER で自動保存機能を使用すると、キャプチャ性能に影響が出る場合があります。
- パケットリプレイヤー機能では、複数ポートから再生する場合はフルレートの性能が出せません。1 ポートからの再生時のみフルレートでの再生が可能です。
- 周期レポート機能でトレンドグラフを生成すると、時間範囲の最終時刻を X 軸の値としてプロットします。例えば集計間隔 1 日のグラフで、1/1 0:00 から 1/2 0:00 のデータ点は、横軸が 1/2 の位置にプロットされます。
- 設定のバックアップ・リストア機能では、異なるモデルの SYNESIS に設定をリストアする場合、別途ファイルを編集する必要があります。

4.2. 本バージョンで追加した制限事項

- パケットリプレイヤーでリプレイを行い、同時にキャプチャフィルタを有効にしてキャプチャを行うと、フィルタが正しく適用されない場合があります。(Ref #5531)
- パケットリプレイヤーでキャプチャレコードをリプレイする場合に、そのレコードの開始直後、あるいは終了直前の 1 秒間の統計データと、実際にリプレイされるパケットに差異が生じる場合があります。(Ref #6591)
- パケットリプレイヤーで使用率が数%またはそれ以下のキャプチャレコードは、ワイヤーレートでリプレイしても、安定して 100%のワイヤーレートにならない場合があります。(Ref #7695)
- パケットリプレイヤーでは malformed packet がリプレイできません。(Ref #7924)

以上